



これから先も思いを繋ぐ

先月の夏まつりは大変な暑さの中でしたが、たくさんの方にお越しいただきありがとうございました。やぐらを真ん中にして輪になって踊る盆踊りの様子は圧巻でした。今年は地域の方との共催ということもあり、盆踊りや太鼓の叩き方を地域の方が職員に教えてくださって、事前からの交流でさらに盛り上がりました。かき氷に盆踊り、ちょうちんの赤い色などが、夏の思い出として子どもたちの心に残り、ずっと地域のお祭りとして繋がっていくといいなと思います。

先月の園だよりで紹介した年長しろ組さんの折り鶴は、こつこつと折り続けて、ついに千羽になりました。子どもたちから、「みんなで平和公園に持って行きたい」との声が出て、平和への思いを届けたいと、みみょう幼稚園の協力を得ながら、園バス3台で平和公園に行ってきました。バスを降りて少し歩くと、すぐに“原爆の子の像”を見つけて、「せんせい、さだこさん!」と指さして教えてくれたことに驚きながら、慰霊碑に手を合わせたり、ずっと消えずに灯っている平和の火や、被ばくアオギリも見て帰りました。そして、子どもたちは園に帰ってからいろんな話をしたようです。平和って？

- 『みんなでなかよくする
- えがおでくらせる
- みんなであそべる
- みんなでごはんをたべれる
- けんかをせずに行っている
- おとなになってもわすれない
- たのしいこと
- けんこうにすごせる
- なんだかうれしいこと



ごはんもおやつもあそぶものもたくさんあること  
とり、ぺんぎんもみんながいきてること  
せんばづるをつくってやさしいきもちになる』  
と、たくさんの思いが溢れていました。喧嘩をすぐにやめたら原爆は落ちなかったかもという子どももいます。悲惨な出来事を、今までの経験から一生懸命に考えて言葉にしています。

担任が読んでくれた絵本をきっかけに関心を持ち、友だちと一緒に見てきたことはずっと忘れないでしょう。子どもたちがまた、次の世代へと平和の大切さを繋いでいってくれるに違いありません。

これから先もずっと希望や夢を持ち、安心して過ごせる未来にしていきたいものです。子どもたちは、『長崎』にも行ってみたいと言い始めています。どうしましょうね。

さて、もうすぐ、昨年からずっと憧れていて、やっと自分たちの番になった年長しろ組さんのお泊り保育があります。今年度は、北広島町から似島に行き先が変更されましたが、フェリーに乗ること、みんなで大きなお風呂に入ること、キャンプファイヤーも楽しみにしているようです。保護者の方と離れ、友だちと力を合わせて過ごす、一泊二日の大冒険。自分の身の回りのことは自分で頑張る、遅くなって帰ってくることでしょ。保護者の方はいろいろと心配が尽きないことと思いますが、一緒に準備を進めながら背中を押してあげてください。右のドキュメンテーションにもありますが、子どもたちが安心してチャレンジできるのは、身近な大人との安心できる関係が土台となっています。わくわくしている気持ちやちょっと不安なことも“そう思っているんだね”と、聞いてあげてください。

園長

第二みみょうこども園の! !



音楽が聞こえてくると、踊りたくなるみどり組さん。踊りながらお友だちが手をつなぐ様子を見ると「わたしも」「ぼくも」と、みんなで手をつなぎ合い、嬉しくて笑顔があふれます。お友だちと心がつながる瞬間でした。

ある日のあか組さんの水あそび。といをつなげて水を流したい様子。「あれ?ながれんね」「ここつなげたらいいんじゃない?」と、やりとりが続いていきます。“〇〇したい”という思いがあると、考えることが楽しいですね!



“じぶんでできるもん!”と誇らしげにお着替えを見せてくれるもも組さん。身のまわりのいろいろなことが自分の意志で、自分でできることの喜び。そして、“みててね”って言える大人がそばにいることって素敵ですね。



子どもたちの“やってみたい”の気持ちは育ちの源です。楽しくてたまらない体験、どきどき・わくわくすることの積み重ねが、子どもたちのさまざまな力を育てています。私たち大人の役目…“やりたくなる”を、引き出すことも大切です!

主任

